

運行内容について

1 前回決定した事項

- (1) 路線は、市民センター等での乗り継ぎをしない現在の路線でよい
(日中の市民センターを中心とした地域内循環は不要)
- (2) 全便新都市交通広場まで延伸する
- (3) 秋田赤十字病院へ行く便の数は、Aコース、Bコースとも上下各1運行
(行きは9時頃までに病院着、帰りは12時頃に病院発)

2 運行方式（事務局案）

	A案	B案	C案	D案
運行方式	幹線・枝線ともに定時定路運行 (現行のまま)	幹線：定時定路運行 枝線：曜日を特定し定時定路運行	幹線：定時定路運行 枝線：小型車両での予約式	幹線：定時定路運行 枝線：曜日を特定し小型車両で定時定路運行
メリット	・現在利用している人にとっては慣れている。	・枝線の車両を一部幹線に振り分けることによって、幹線の便数が増え利便性の向上を図ることができる。	・枝線の車両を一部幹線に振り分けることによって、幹線の便数が増え利便性の向上を図ることができる。 ・枝線は予約式とすることで便数は維持できる。 ・予約がなければ運行しないため、効率良い運行ができる。	・枝線の車両を一部幹線に振り分けることによって、幹線の便数が増え利便性の向上を図ることができる。
デメリット	・延伸した場合、大回り便の乗車時間が更に長くなり、高齢者にとって負担が大きい。 (例：命ヶ沢から秋田赤十字病院間最長1時間42分)	・枝線は曜日運行となるため、利用が制限される。 ・枝線の便と路線が重複する幹線のバス停の時刻表が複雑になる。	・枝線は電話で予約する手間がかかる。 (予約後、乗車時間を知らせるための折返しの電話を受けなければならぬ。)	・枝線は曜日運行となるため、利用が制限される。

3 幹線と枝線の確認